



園長：いずみプラザでみせてくれた意欲的な“自分で”の姿の数々。そこから園の玄関も広くすることにしました。



じぶんで！といいながら挑戦し、できた時には達成感を味わいながら、少しずつ自分の力できることが広がってきました。
子どもたちの自ら育つ力は遅いですがね^^



お茶タイムや帰る準備の時には、みんなの水筒や靴を取り出してきれいに並べてくれたり、お届けまでしてくれる姿がよく見られるようになってきました。



自分のことはもちろん、お友達のことにも気遣ってくれる様子に、お友達との信頼関係や視野の広がりを感じた場面です。



園長：自己認識が確かなものになっていく姿。鏡も自分を客観視する道具でもありますね。



鏡に映った自分を見て、ゆっくりゆっくり、お顔を動かして表情の研究中…自分自身をじっくり観察する、そして意識して動かしてみる、そんな自己研究の時間もとても大切です。



自分だけではなかなか「やってみよう」の気持ちにならなかった時も、お友だちの力を借りると、とたんに「やってみよう！」の気持ちが生まれてくることも。



そんな風に、お友だちの存在によって世界が広がったり、やってみたいことが増えたりすることもたくさんありますね。



園長：助け合って生活する心地よさ。そのために自立するんだということを教えてくれる見事な姿でしたね。



3期まとめ

秋は、季節の自然物とたくさん触れ合える時期でした。柳北公園で大きな葉っぱを見つけて、それをテラスに持って帰ってきてみたら、想像以上に楽しんでいた子どもたち。それをきっかけに、葉っぱ遊びをもっとたっぷりできたら楽しいかな！？…と思い、袋などのアイテムも用意しつつ、公園に出掛けました。手作りお散歩バッグもそのひとつ。ヒメリンゴや葉っぱなど沢山集めていましたね。葉っぱ遊びから、アリの観察、そして、テラスの床板の隙間をライトで照らし光の遊び…と、ひとつひとつの遊びがさまざまな方向につながっていく様子も面白かったです！子どもたちの「面白い！やってみたい！」は遊びや生活のあらゆるところに生まれています。その好奇心に、できる限り、じっくり取り組める時間を大切にして過ごしてきたつもりです。